レポート2021

第46回淑楓祭　テーマ　虹　10/30(土)・31(日)

大学

新たに挑み続ける淑楓祭

両キャンパスの大学祭実行委員長によるレポートです。

長久手キャンパス

第46回淑楓祭が無事に終わり、各方面に多大な感謝を表するとともに、ほっと安堵しています。

今回の淑楓祭のテーマは「虹」です。コロナ禍でやりたいことができず、皆様の心には雨が降り注いでいたと思います。そんな皆様の心に光を差し、希望と笑顔に溢れる未来への虹をかけたい、そんな思いを込めました。

今年は対面とオンライン生配信という新たな試みに挑戦しました。

1日目は在学生のみに限定する形になってしまいましたが、例年通り対面形式で開催しました。多くの方にご理解・ご協力をいただき、感染症対策に力を入れ、誰でも安心して参加できる大学祭を作ることができました。また、例年はセンタースクエアに建てていたメインステージを8号棟前に設置しました。普段とは一味違うステージや、8号棟の階段に虹色の大きな装飾をするなど、今年ならではの工夫を凝らすことができました。

2日目は、家から楽しめるオンライン配信をしました。出演団体が作成した動画はどれもクオリティが高く、とても楽しませていただきました。そして、今年は本学のクラブ団体の方にリアルタイムでのパフォーマンスをしていただきました。画面から熱気が伝わってくるような臨場感のある映像をお届けできたのではないでしょうか。

最後になりますが、第46回淑楓祭に関わるすべての方に厚く御礼申し上げます。

P∀SHによるメインステージ発表

書道パフォーマンス

視覚科学会 ミニ眼科

茶華道部 教室展示

大学祭実行委員による障害物競走ゲーム

星が丘キャンパス

今年度の淑楓祭のテーマは「虹」です。コロナ禍でやりたいことができなかったり、大切な人に会えなかったりして心に雨が降り続いていますが、そんな皆様の心に光を差し、希望と笑顔に溢れる未来への虹を架けたいという思いを込めました。

今年度は1日目を対面、2日目をオンライン生配信で開催しました。1日目はお客様を学内者に限定して開催しましたが、90人の方々にご来場していただくことができました。教室企画、バスボム作り、星の広場、ステージでのクイズ企画やよさこい、星ヶ丘軽音楽部によるパフォーマンスを行い、多くのお客様に楽しんでいただくことができました。2日目のトークショーには佐野勇斗さんが出演してくださり、237人の方々にご覧いただき大変盛り上がりました。

お客様に来年もまた来たいというお言葉をいただき、実行委員として大変嬉しく思います。来年度以降も、変化し続ける環境に合わせて、たくさんの方々に愛され、常に発展し続けられる淑楓祭を目指していきます。ご協力いただいた関係者の皆様、お越しいただいたお客様、配信をご覧いただいた皆様へ実行委員一同心より御礼申し上げます。

よさこい探究会「鳴踊」の演舞

星の広場

正面階段装飾

バズボム作り

星の広場

中学校

中学校芸能祭

11/4(木)・5(金)

中学校の芸能祭は、机上の学習では得難い能力を身につけさせるための大切な教育活動です。テーマ等を決定する討論にはじまり、生徒たち一人ひとりが能力を出し合って企画、準備を進めていきます。集団で1つのことに取り組むことは大人でも難しいことで、協力して物事を前に進めていくことの困難を経験しますが、自分の意見を伝える方法や他者を尊重すること、計画的に実行することなど、多くを学びます。

コロナ禍ではありましたが、3年生は「演劇祭」を実施することができました。

1・2年生は従来の「合唱」ではなく、新たな試みとして、2年生は空間芸術作品制作に取り組む「ミニ・インスタレーション」を実施し、1年生は「大きな紙芝居」を企画して準備中です。

ミニ・インスタレーション

演劇祭は例年より短い準備期間ではありましたが、キャストはもちろん大道具、衣装、音響、照明がそれぞれの能力を駆使し、すばらしい舞台を作り上げました。また、ミニ・インスタレーションもクラスごとにテーマを決めて、創意工夫を凝らした作品に仕上がりました。どの学年も披露する当日の生徒の表情はマスク越しでも生き生きとしていることがわかり、充実感と達成感に溢れていました。

演劇祭

演劇祭

高等学校

九州北部研修旅行

10/25(月)～29(金)

今年度の高校2年生の研修旅行は、吉野ヶ里遺跡・熊本城・雲仙・長崎・太宰府天満宮を訪れ、九州の特色ある自然・文化・歴史について学びました。

コロナ禍2年目、本当に実施できるのか心配は尽きず制限の多い旅程でしたが、感染症対策に万全を期し、生徒や保護者の皆さまのご理解ご協力のおかげで、無事行うことができました。

本校の研修旅行の大きな目的に「平和学習」があります。事前学習として調べ学習に取り組んだり、HRや授業で先生の話を聞き現地に向かいます。そして長崎では、戦争遺跡・原爆資料館の見学の後、被爆体験講話、慰霊祭を行い、「no more ナガサキ」の思いを新たにしました。

被爆体験者羽田麗子さんのお話は事前学習の想像を遥かに超えるものでした。「微力だけど無力ではありません。」「問題が起こったら、話し合いで解決をしてください。」などの羽田さんのメッセージに強く心を揺さぶられました。

眼鏡橋にて

生徒からは「戦争は体験していないけれど想いを馳せることはできる。」「平和について考えることを絶対にやめてはいけない。」「私たちは戦争体験者から直接お話を聞くことのできる最後の世代、同時に次世代に伝える最初の世代。」などという声が聞かれ、学んだことをしっかり受け止め、行動したいという決意を感じました。

多くの学びとともに、現地の人との触れ合いや仲間同士の笑顔がたくさんありました。家族への感謝の気持ちも膨らみました。得られたものも大きく、意義深い5日間となりました。

爆心地公園 慰霊祭 献花

太宰府天満宮

被爆体験講話

爆心地公園 慰霊祭 黙祷